

日本認知科学会監修！

# 「認知科学のススメ」

## シリーズ

全10巻 四六判

●既刊

第1巻 『はじめての認知科学』 178頁  
1800円

内村直之・植田一博・今井むつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一(著)  
20世紀後半、こころの働きを内側から解明しようと、心理学、人工知能研究、言語学、脳神経科学などが融合して生まれた認知科学。日本認知科学会監修のもと、サイエンスライターを迎えて研究の最前線を魅力たっぷりに解説するシリーズ全巻の入門編。

第2巻 『コワイの認知科学』 130頁  
1600円

川合伸幸(著)・内村直之(フアシリテータ)  
あの生き物はなぜコワイのか。怖がりや生まれつきなのか。サルとヒトとの比較や幼児の怖がり方などさまざまな実験から、コワイという気持ちを生み出すメカニズムに迫る。ヒトの基本的な情動であるコワさを知り、コワさを抑えるヒントも得られる。

第4巻 『ことばの育ちの認知科学』 118頁  
1600円

針生悦子(著)・内村直之(フアシリテータ)  
生まれて数年で語りだすヒトの能力。子どもは、話し声の中から「言語の音」と「それ以外」をいかに区別し、言語と言語以外から得られる情報を合わせて理解するようになるのか。言葉と音、気持ちや意味をめぐる謎を問い、認知科学の面白さを味わう入門書。

第5巻 『表現する認知科学』 132頁  
1600円

渡邊淳司(著)・内村直之(フアシリテータ)  
触れることがはばかられる時代に私たちは、自分事として身体や他者、世界を感じられるのか？「自己と他者」という根源的な問いに、認知科学のワークショップや触覚・身体感覚のテクノロジーからアプローチする異能の研究者のヴィヴィットな実践集。

第6巻 『感じる認知科学』 126頁  
1600円

横澤一彦(著)・内村直之(フアシリテータ)  
普段当たり前前に体験する「感じる」こと、すなわち知覚とは？ 外界情報を取捨選択、増幅、変形し表象として脳内に再構成する過程から、存在しないものすら感じられる能力により情動や行動が誘導されることの影響までも問う、新視点からの知覚の教科書。

第8巻 『インタラクシヨンの認知科学』 148頁  
1600円

今井倫太(著)・内村直之(フアシリテータ)・植田一博(アドバイザ)  
ヒトを超えるAIが喧伝される一方、まだロボットとの会話はぎこちない。注意を使うロボット／状況のわかるロボット／状況を共有するロボットなど、ヒトの認知特性に合わせたロボット開発から、社会の一員として暮らせるロボットの可能性を探る。

第9巻 『オノマトペへの認知科学』 184頁  
1800円

秋田喜美(著)・内村直之(フアシリテータ)  
豊かな描写力もち、私たちの言語活動に彩りを与えるオノマトペ。その表現のシククリ感の源や、語彙・文への溶け込み方を分析すると、言語そのものの本質が見えてくる。「言語の起源」という謎へも示唆を与えるオノマトペの明快で刺激的な入門書。

第10巻 『選択と誘導の認知科学』 192頁  
1800円

山田歩(著)・内村直之(フアシリテータ)・植田一博(アドバイザ)  
洗剤選びから政治的立場の決定まで、人の選択には無自覚に方向性を決める「癖」がある。選択結果を誘導する認知的環境や選択肢の設計はいかなるものか。誘導技術は善用できないのか。人の情報処理の仕組みを解明し、さらなる考察へと誘う入門書。

●刊行予定  
第3巻 『人工知能とスマート社会の認知科学』 (仮題)  
橋田浩一(著)・内村直之(フアシリテータ)

第7巻 『おもてなしの認知科学』 (仮題)  
熊田孝恒・互惠子(著)・内村直之(フアシリテータ)